



新名宗經冊



空蟬の母の音もいよしゆらぬ能遊のうつくし
物から星う海のうつくしにゆく来りの中に今
知うのう葉う海にゆきゆきとゆく白と黒のうつく
しきやりの河うつくし高きうつくし白と黒のうつく
見ゆらぬうつくしうつくしうつくしうつくしうつくし
ゆきと波うつくしうつくしうつくし今横道にゆく
宮にゆく海にゆくうつくしうつくしうつくしうつくし
梅價にゆく男はもてゆく東山の色は重の楽更
てふ舟の教もゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
味游の綾丹く死をいづく彼家に入らず快高れ
ま路もいづくゆきとゆくうつくしうつくしうつくし
うつくしゆきとゆくうつくしうつくしうつくしうつくし

かこころをうらやみ或る芝の長柄の浦に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に
舟に乗りて舟に乗りて道に先をゆく舟に



名錄

蕪村

平安人謝氏名長庚字春星号夜半亭

玉翠

東都人竹原氏号凜之舍

俵瓜

丹陽須知人前田氏名則繼累世以杜康為業

此角

泉嘉東府人伊藤氏号終日庵

月居

平安人江森氏竹巢又曰仕他庵

其督

浪花人林氏号東臯舍

野鶴

越后敦賀人西邨氏称雞群叟齡已七十

梅洞

城南居清水巡檢使長寺村氏号霍栖

成美

東都人夏目氏文化中没

士容

浪花人近藤氏号霜姿庵

千東

浪花人内山氏号雪之家又曰栗庇

一路

城加免道人山上氏

淇園

江東水口藩士吉田氏源克兼号吳弁園

卧鵬

浪花人晉氏号八口庵

素龍

東都人竹原氏号守黑庵女政九丙成妹没

吳門

丹加龜藩国医市川氏名鎮字因輔

月条

羽后秋田人伊藤氏号寸流舍又嘯月樓

鶯笠

肥后卅人今在東都初名對介

桂紫女

東都人竹原素龍室

菘庵

勢加招阪人菅氏号碩果園



丈翠

洛西嵯峨嵐山下人大八木氏
号梅塢亭

對青

浪華人荒川氏号竹因舍并壺
盟徒之一人

素檠

信陽上諏訪人走后自稱俳骨
翁

龜洛

浪花錦城外入菅野氏号松江
丸

華實

泉州東府人号紫鳳眉松子其
屋有有言亭落葉庵

其德

勢南松阪人雲出藏氏

樗堂

豫加松山人正木氏文化中沒

寸鼻

洛西北峨小倉山下人小山氏

漱石

浪花人采田氏号松陰
以下四捨追而加房三篇

里童

湖東蒲生郡葛卷村安樂寺住
僧号并蒿庵

文政十丁亥夏

奇松

湖東鏡山麓人玉尾氏号著
齋

龍尾

東都人各敬信字文兒二世土
龜庵号寒泓有印癖取藏瓦深

淇溪

浪花人早川氏号緑亭

杜鵑

平安人辻氏号晉溪初崔改鵲

孤靜

淡海塩津人中邨氏号垂柳舍

李興

阿加人來住京師上栢氏

梅堂

平安人田中氏号鶯村亭

旭山

浪花金城西人渡邊氏号芳辰
亭

栢架

平安人中河氏号御柱亭

奇淵

棋難波人菅氏号大黒庵叙法
橋位

平安竹壺 枯魚識

いふ事又いふ事
兼ていふ事

清人のわかれは花由る雪の舟
千束

陰翳あや火桶の
玉琴
強し舞扇

蓮の葉は
日かたかた
まのまの
秋

いそぎよく出てゆかへに

しりぬわの花

徳久

酒のうらさき花の香るる

宇治橋のわかし

さよふらむ日とをうらなす

心づかぬ花の木より

春は月とれふのきと秋の月 月居

字に雅と玉穂や 初多子 景龍
まをりて 市橋乃面

夜の麻乃啼りて 月夜は 燈火 晴

にちのさきー 残花のこゝろ 花は 咲く

柿

の
あ
か
し
の
あ
か
し
の
あ
か
し

秋乃月
流
の
あ
か
し
の
あ
か
し

秋

柿洞

舊
の
昔
の
あ
か
し
の
あ
か
し

舊の昔のあかし

あ
か
し
の
あ
か
し
の
あ
か
し

あ
か
し
の
あ
か
し
の
あ
か
し

もりのあはれのかみゆる
撫でる川筋のそと 以菴巻

人をもてしのびほげや 古宮
道にゆく人の影

あはれこの世と なつをぬく
海をふくむる 桂葉の

ひの土塵 あはれ
あはれ あまの
あまの あまの
あまの あまの
あまの あまの

深き水に
安んずるも
ちかたか
素心
が
深

一軒をいふ
深き水
深

枯
深
何
か
深

と
な
く
も
の
う
ち
に
半
時
を
枯
深
飲
み
水
枯
深



水鳥

上人

上那



かき

挽

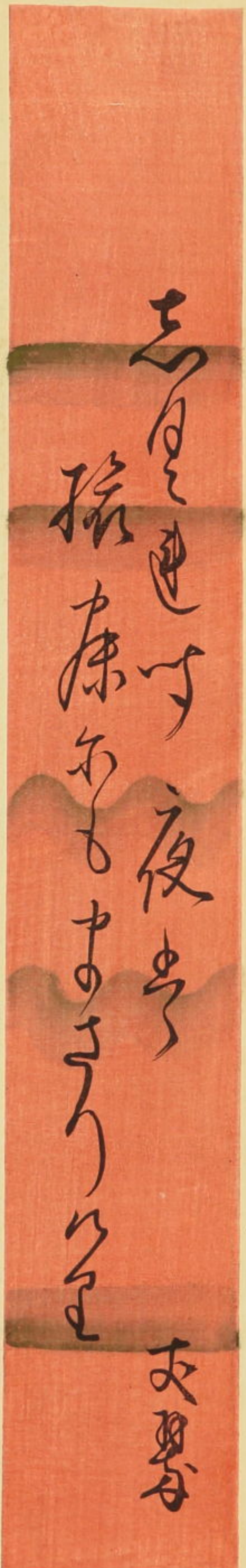
松



水

け

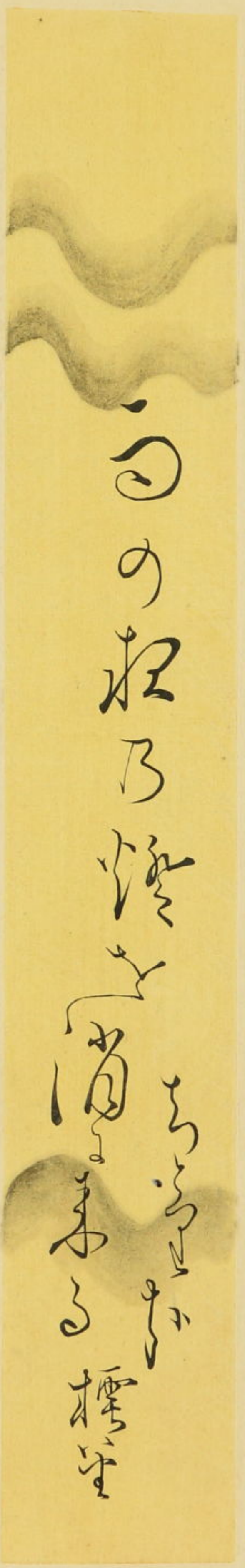
く



高

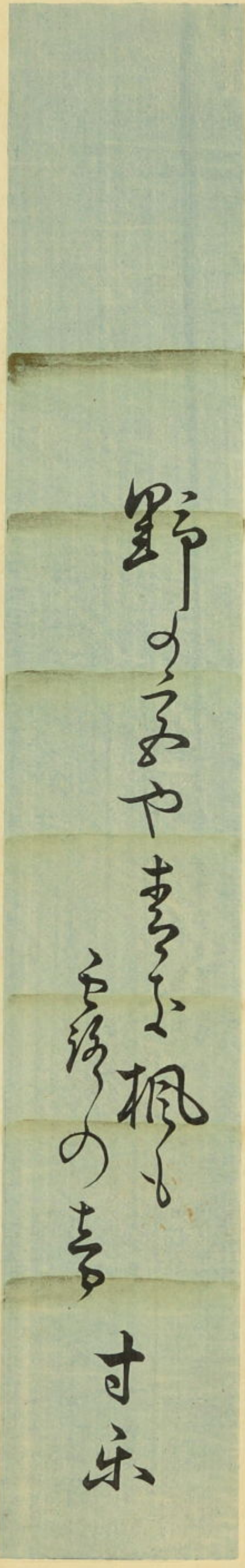
猿

松

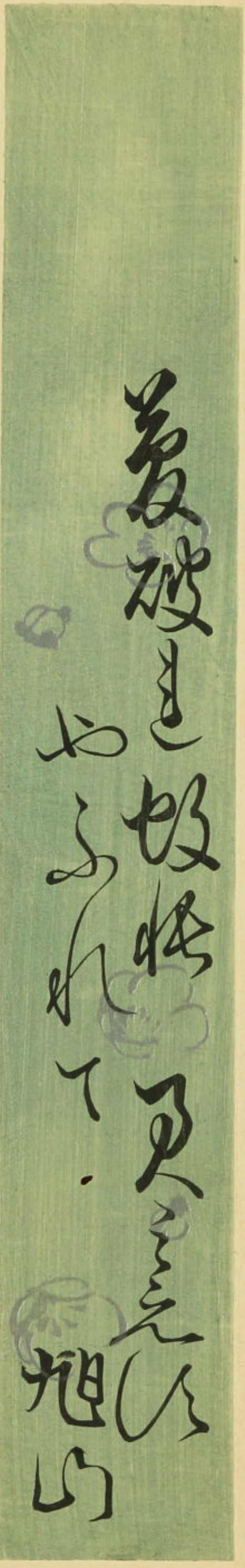


日のぬる煙を消す標

花竹やまきと
そふふふふふ
梅笠



野のふみやまふ楓も
そ後のまき
寸乐



夏破も故情
よふれ
旭山

十有月廿五日
船のありて
たれか
華宮

舟のありて
たれか
華宮

舟のありて
たれか
華宮

暮果如尾也
たれか
華宮

無残夏の
うたきや葛の
花 瀬石

舟も清き
まはるる
お祭

おこぬるの月を
里暮

おこぬるの月を
あけし
お祭

持明院殿不破の尊乃此板幅小治之經冊の寸法とてその
古本除目の一短冊の文一の寸法とて一薄口が記
短藉あり三條の縁ハ縁藉も短冊の寸法とて一の寸法
ありたはるかに一の寸法とて一の寸法とて一の寸法
一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて
一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて
一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて
一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて
一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて一の寸法とて

五ノ井眉誌

梅伊守



